

燕南部地区

(新潟県燕市)

- 計画期間 平成19年度～平成23年度
- 面積 990ha
- 交付対象事業費 4,651百万円
- 市人口 77,687人

ポイント 人と自然と産業が調和しながら、進化
するまちづくりをめざして
～ひとづくり・ものづくり・
自然を活かしたまちづくり～

地区概要 利便性の高い道路交通網の整備や災害に対す
る都市整備。中心市街地をハード・ソフト両面
から推進するとともに、地域産業の資源を活か
した取り組みを促進する。

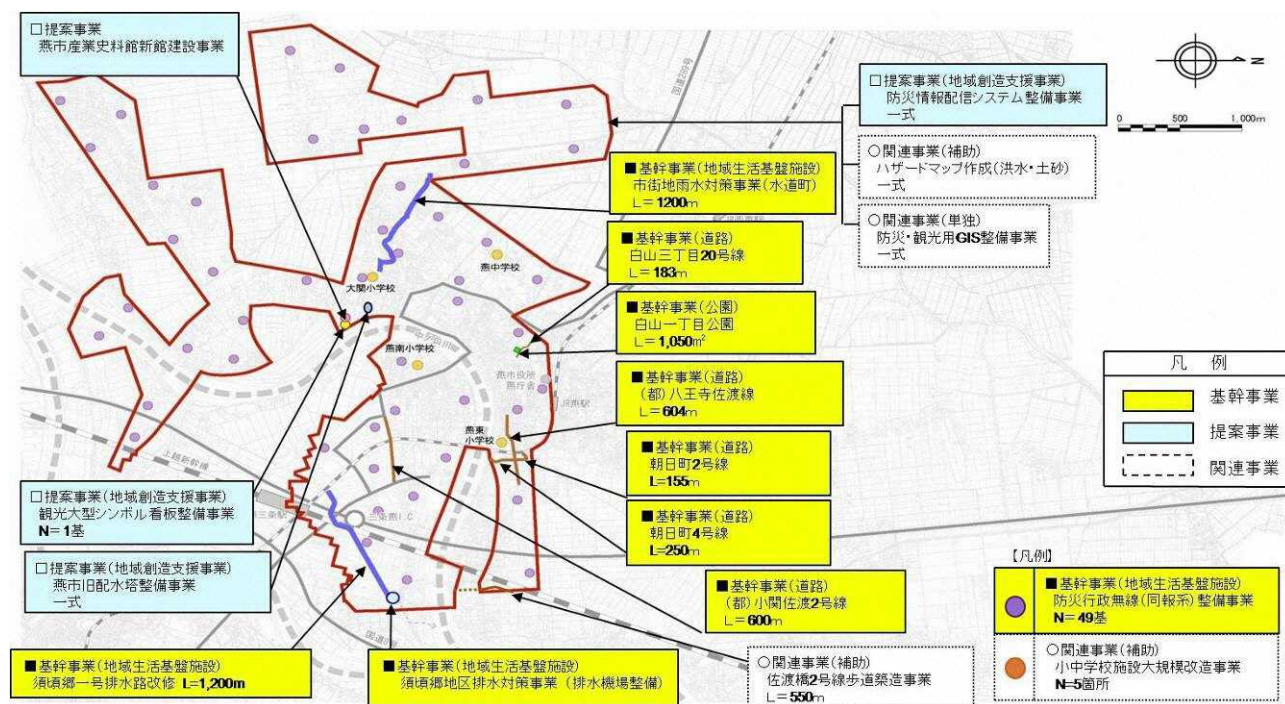
目 標 中心市街地にふさわしい、防災性の高い、活気と活力があふれるまちづくり

指 標 防災対策の推進・充実、市街地の
狭く複雑な道路状況の解消により、
地域産業のPR強化・観光推進と
いった相乗効果を目指した。

須頃郷地区の浸水予想区域面積	19.20 ha (H18)	→	3.41 ha (H23)
災害関連情報受信可能世帯率	10 % (H18)	→	70 % (H23)
産業関連のイベントの開催件数	7 件/年 (H18)	→	9 件/年 (H23)
浸水エリアの減少(水道町地内)	9,000 m ² (H21)	→	0 m ² (H23)

事業内容 基幹事業 (3,830 百万円) → 街路 (2カ所 総延長 1,204m)、道路 (3カ所 総延長 588m)、公園 (1カ所 A=1,050 m²)、排水路 (1カ所 延長 1,200m)、排水ポンプ施設、市街地雨水対策事業 (1箇所 延長 1,200m)、防災行政無線 (49基)

提案事業 (821 百万円) → 産業史料館新館建設 (A=840 m²)、観光モニュメント (看板) 整備 (1基)、防災情報配信システム整備 (一式)、旧配水塔整備事業 (一式)



地区の現況と課題

中ノ口川沿いに位置する上越新幹線燕三条駅周辺の市街地では、集中豪雨などによる浸水被害が多発しており、水害に対して脆弱な状況が見られる。それにともない、緊急時の重要な街路網の整備や、災害時の総合的なネットワークの構築などインフラ整備が求められる。また、地場産業の振興や地域ブランドの強化などにも支援策が求められる。



▲雨で道路が冠水し通行止めとなる

提案事業の特徴

産業史料館新館設事業

既存施設の産業資料館及び矢立煙管館等は、昭和初期までの戦前の資料展示にとどまっており、新たに戦後の金属洋食器および金属ハウスウェアを展示するとともに体験スペース等を設ける。また既存の施設は幹線道路から離れており、駐車場も少ないことから本施設と機能的に連携した形で建設することによって、燕市の産業観光の拠点として活用する。



▲産業史料館新館建設、観光モニュメント

観光モニュメント整備事業

産業観光と連携して、モニュメントの整備を図り、燕市を訪れる観光客の利便性の向上を図る。

防災情報配信システム整備事業

インターネットのメール機能を活用し、携帯電話等に対して緊急時の災害情報を配信する伝達システムを構築する。

旧配水塔整備事業

旧配水塔は昭和16年に完成し、昭和44年に浄水場が移転するまでの間、市民に飲料水を提供してきた。現在は歴史的建造物として保存してきた。今後は近接する産業資料館が増築・改修することから、連携した観光施設として、また現在一般開放をしていない内部を展示室等として利用し配水塔の歴史等を来場者に伝え市のシンボルとして再利用を図る。



▲旧配水塔整備事業

計画策定プロセス

地域住民自らが、地域の課題や問題を掘り起こし、解決策を協議し、責任をもって解決していくことで自立した地域づくりを行う組織として、市民の一定の地域を単位とする「まちづくり協議会」を設置し、地域住民による主体的な地域づくりを進めている。

また、それぞれの事業を円滑に効率よく推進していくために、地元の各団体と行政とがその事業の進捗状況、成果、評価、を協議する会合を開催していく。



▲屋外拡張子局設置及び
既設設備のデジタル化